

40号記念特集

ラポールのこれまで

History of the AUIW Library Magazine: Rapport

おかげさまでラポールは今号で40号を数えることとなりました。これを記念して、40枚の表紙画像とともに、これまでのラポールの歩みを振り返ります。

2003

1

ラポール創刊！



2003年10月、新たな図書館サービスの一つとして、図書館だより「ラポール」が誕生しました。以降、年2回の頻度で発行されます。

「ラポール」という名称は、学生・教職員に公募し、当時在籍されていた桜木康広先生(理学療法学科)の案が採用されました。

シリーズ「図書館を使いこなそう」は、図書館の基本的な使い方や新しく導入したサービスなどを紹介するコーナーで、創刊号から現在まで続いている息の長い連載企画。第1回は蔵書検索方法についてでした。

2004

2



シリーズ「図書館を使いこなそう」は、図書館の基本的な使い方や新しく導入したサービスなどを紹介するコーナーで、創刊号から現在まで続いている息の長い連載企画。

第1回は蔵書検索方法についてでした。

2005

3



本の紹介記事掲載スタート

第3号からは本の紹介記事が掲載されるようになります。各学科の先生方からの推薦図書がずらり。

2005

4



記事を読んで興味を持った本を手にとれるようにと、図書館内には記事と連動した展示が行われるようになります。

5



つながりを生み出すことを目標に…

号を重ねるにつれ、学生による記事が少しずつ増えていきます。

図書館でアルバイトをした経験談、先輩から新入生へのメッセージ、後輩に薦めたい本、などなど。

2006

6



図書館から一方的に情報を提供するのではなく、学生と学生の交流の場でもあってほしいというのが図書館スタッフの願いです。

2007

7



“ラポール”は人間同士のつながりを意味する言葉ですからね。

2007

8



紙の発行終了

第8号は紙媒体での発行最終号。ラポールの歴史の一つの転換点と言えます。

紙版の用紙は少し厚手で手触りの良い紙質でした。この感触との別れは少し寂しいものがあります…。



9

オールカラー化

Web発行に移行したことで、色数やページ数の制約から解放され、制作時の自由度が広がりました。

2008



10

おすすめ本の書影の掲載も始まり、誌面が華やかに。

顔写真の掲載に応じてくださった執筆者には、図書館内のお気に入りの場所でポーズをとっていただき、撮影を行いました。



11

誌面デザイン一新！

「Rapport」の題字を大きくあしらい、画像を効果的に使った目を引くデザインに一新しました。

2009



12

ラポールのレイアウトデザインは図書館スタッフが行っています。

大学図書館としての品位を保ちつつ、遊び心のある誌面づくりを目指しているんですよ。



13

読む人に楽しんでいただきたい、というのはもちろんですが、執筆者にも原稿を書いて良かったと感じていただけるようなものにしたいと思いながら作っています。

たくさんの人の協力があって初めて、ラポールは成り立っているのですから。

2010



14

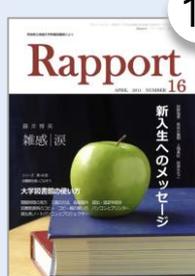


15

リポジトリ紹介記事掲載

2010年6月に正式公開された本学のリポジトリA-plus(アプラス)を紹介する記事を掲載。

2011



16

オープンアクセスについて知ってもらう活動も度々行っています。

トリゾウ誕生！



17

学生さんのアイデアから生まれたんだよ！



ついに、われらが広報キャラクター、トリゾウ誕生！

2012



18

ラポール初登場は16号。この時はとても小さなカットイラストでしたが、17号からは満を持して表紙に進出！

初期はほぼ直立不動の姿ばかりでしたが、次第に本を読んだりパソコンを操作したりと動き始め、じわじわと存在感を増していきます。

2013



19



20

創刊20号記念

20号記念特別企画では「20歳のころ、どんな本を読んでいたか？」と題し、教職員の思い出の本を紹介しました。



21

電子書籍サービス開始

電子ジャーナルは早くから導入していましたが、電子書籍サービスは2013年より開始。少しずつ図書館資料の形態が紙と電子のハイブリッド化していきます。

2014



22

図書館活用術&自著紹介

23号から10回に渡り、教員による「図書館活用術」をシリーズで掲載。学生を指導する立場からのアドバイスもあれば、ご自身の学生時代の経験談などもあり、先生方の個性が光ります。



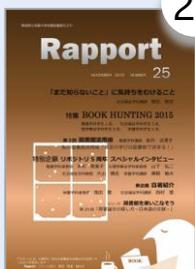
23

2015



24

25号からは10回に渡り、本学の教員が携わった本を紹介する「自著紹介」を掲載。内容についての解説や、執筆にあたっての思いなどを綴っていただきました。



25

リポジトリ5周年記念 スペシャルインタビュー掲載

リポジトリA-plus正式公開5周年となったこの年、オープンアクセスウィークの企画として、リポジトリに論文を提供してくださった4名の先生方へのインタビューを行いました。

インタビューのダイジェスト版は大学のエントランスロビーでポスター展示。25号には、完全版を15ページにわたって掲載しました。



エントランスロビーでの展示の様子

Rapport No.40

2016



26

回を重ねる人気企画 ブックハンティング

ブックハンティングはラポールの記事としても、図書館内での展示としても人気の企画。

学生に「図書館にあったらいいな」と思う本を選んでもらい、図書館の蔵書とします。若い感性で選ばれたラインナップは、やはり学生の反響が大きく、頻繁に貸出されました。

初期は実際に書店に足を運んでの選書のみでしたが、オンラインによる選書も選択肢に加えるようにし、学生が自分の好みのスタイルで参加できるように変更しました。

2017



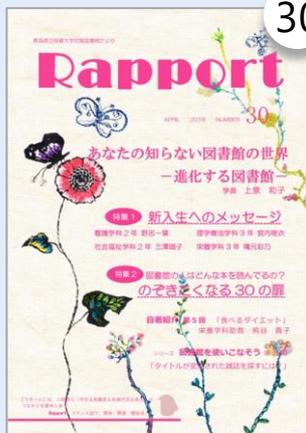
27

2018



28

2018



29

創刊30号記念

30号記念特別企画「のぞきたくなる30の扉」を掲載。図書館スタッフがテーマに沿って30冊の本を紹介しました。

開学20周年記念増刊号

初めての増刊号発行。20周年にちなみ、20号で好評だった「20歳のころ、どんな本を読みましたか？」を再度特集。



増



31

ヘルスリテラシーブックフェア

2016年から2019年にかけて、ヘルスリテラシーに関連する図書90冊のリストを作成し、青森県内の図書館に貸出する活動を行いました。

館内にも「ヘルスリテラシーブックフェア」と題して展示。31号から35号まで、関連本の紹介記事を掲載しました。



ブックフェアのポスター

COVID-19の影響

三密、オンライン授業…そんな言葉がちらほらと記事に見受けられるようになります。

ブックハンティングも、インターネット書店を利用したオンライン選書のみに変更を余儀なくされました。

どの業界も手探りの状態でしたが、大学図書館も例外ではなく、これまで対面で行っていたサービスを遠隔で利用できるように工夫したり、電子書籍の購入数を増やしたりと、これまで同様とはいかないまでも、少しでも学習環境を良いものにするために試行錯誤を繰り返しました。

2019



32



33

2020



34



35

2021



36

マイナーチェンジ

36号から、入学式に合わせた年1回の発行に変更。

内容もリニューアルし、35号までの教員による図書館活用術に代わり、「学生の図書館活用方法」がスタートします。

2022



37

コロナ禍を経て…

リモートアクセス方法の紹介など、来館せずに資料にアクセスするための記事の掲載が続きます。

2023



38

コロナ禍で否応なしに進んだ感のあるリモートアクセス化ですが、結果的には実習先や自宅での学習が便利になり、日常を取り戻しつつある現在では、来館利用と遠隔利用を上手く併用していただけるようになりました。

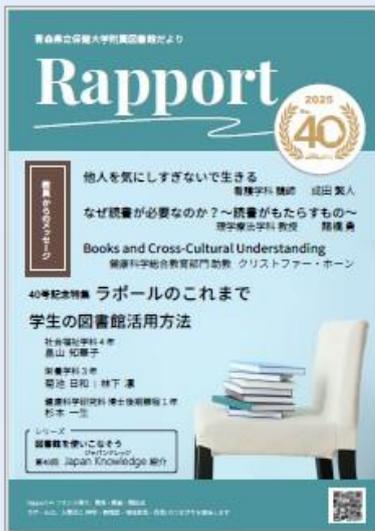
2024



39

学術情報や資料へのアクセス方法がずいぶんと多様化しましたが、コロナ禍を経てなお、図書館を利用しよう！足を運ぼう！という内容の記事を寄せてくださる方が毎号のようにいらっしゃることは、図書館スタッフの励みとなっています。

2025



そして、その先へと続く…

40号記念特集「ラポールのこれまで」、楽しんでいただけましたでしょうか。50号を迎えるころ(10年後です!)には、図書館は、そしてラポールはどう進化しているんでしょうね。

こちらから、すべての号をご覧くださいませ。▶▶▶

